

④1 高山駅周辺土地区画整理事業 高山駅東西自由通路及び東西駅前広場整備

受賞機関 高山市

キーワード 高山らしさ、官民一体のまちづくり

全建賞審査委員会の評価ポイント

高山駅周辺土地区画整理事業と一体的に進められた、高山らしさを表現した東西自由通路及び東西駅前広場の整備事業。まちづくり協議会などを積極的に開催し、高山駅周辺土地区画整理事業、自由通路整備、駅前広場整備それぞれに地元の意見を幅広く取り入れ、施行の進捗を図るとともに、官民一体となり、まちづくりを実現した点が評価された。

1. はじめに

高山市は、岐阜県の北部飛騨地方に位置し、平成の合併により東京都とほぼ同じ広大な市域を有している。「飛騨高山」として国内外から多くの観光客が訪れる高山駅は、飛騨の玄関口として発展し、駅周辺は市街地化していたが、南北に走るJR高山本線により東西の往来が自由にできない状況にあった。

この事業は、道路などの公共施設整備だけでなく、宅地の利用増進を含めた地区全体のまちづくりとすることで、飛騨の玄関口としてふさわしい市街地の形成を目指して行ったものである。

2. 事業の概要

高山駅周辺土地区画整理事業は、高山駅を中心に8.6haを施行地区とし、都市計画道路約1.2km、区画道路約1.4km等の整備を行った。

また、関連事業として東西自由通路整備と東西駅前広場整備を併せて進めることにより、事業の効果をより高めることを目指した。

自由通路の整備においては、東西どちらからも同じ利便にて駅利用できるよう、ユニバーサルデザインの観点から橋上駅舎タイプとし、自由通路の途中から駅が利用



高山駅周辺

できる歩行動線とした。

また、自由通路内には、地元産の木材を使用した装飾のほか、ユネスコ無形文化遺産高山祭の祭屋台の一部を実物大で製作展示するなど、地元伝統技術の結集である『祭屋台』を題材にした展示により、観光客だけでなく市民にも地元伝統技術に興味を持っていただけるような空間づくりを行った。

駅前広場の整備においても地元産の石張りとしたほか、消融雪設備への地下水利用やアースチューブの設置など熱源エネルギーの低減にも配慮した。

事業を進めるにあたっては、学識経験者や関係機関、周辺住民の代表などが参加する「高山駅周辺地区まちづくり協議会」を20回にわたり開催し、協議会において出された意見を参考とした。協議会では、地区内の歩行動線などの計画的な事項から、自由通路における展示物の詳細に至るまで、広い範囲について意見を出し合っていた。

3. 事業の成果

事業開始当初から、まちづくり協議会の意見を参考にして事業を進めたことにより、市民の意見を取り入れた整備を行うことができ、「高山らしさ」を表現することができた。

平成30年8月の完成以来、多くの市民、観光客に利用されているとともに、周辺の土地利用も活発となってきた。



自由通路内（祭屋台展示）

4. おわりに

駅周辺の更なる活性化を図るためには、駅西地区の再整備をはじめ、更なる取り組みが重要となる。今後も官民一体となってまちの価値、魅力の向上に取り組んでいきたい。

賛助会員 (株)熊谷組